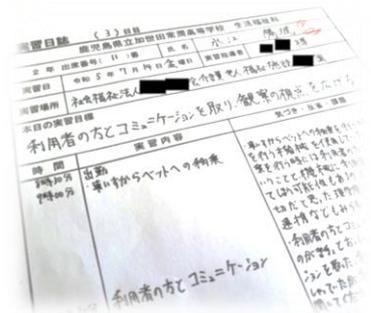


「実習を通じた改善点」(文責:阿久根)

今回私は、南さつま市にある特別養護老人ホームに実習に行きました。私は、介護技術の向上を目指しており、一日の実習を大切に目標達成に向けて頑張っています。実習の基本的な流れとして朝におむつ交換や入浴介助を行い、昼に食事介助をして間を取ってから入浴介助とシーツ交換を行いました。他にも利用者の方を知るためにコミュニケーションを取りました。私が話をした認知症のある方は、野球が好きな方で自分も野球をしていたのでとても会話が進み、その方のことを少しでも理解することができてよかったです。

介助の練習は学校で行っても実際の利用者の方と触れ合えません。介護実習だけでは実際の利用者を介助できないので良い経験になったと思います。実際の介助では慎重になりすぎてしまい職員の方に注意をされました。おむつパッドがずれてしまい、尿漏れを防げないと注意されたことや、食事介助での声掛けをすること等です。学校でも行ったのにできなかったのでもっと復習ができていないことがわかりました。この注意点を後半の実習までに改善していきたいです。



「思いを受け止める介護の重要性」(文責:松野下)

7月の介護実習が終わりました。私は地元にある特別養護老人ホームに行かせて頂きました。特別養護老人ホームは認知症が進んでいる方や白内障である利用者さんが多く、介助やコミュニケーションが、1年次の実習に比べてとても難しくなったと感じました。特に認知症の方とコミュニケーションをとった際に、自分が伝えたい内容と利用者様が受け取った内容が異なることが多く、どうすればコミュニケーションが上手いかわかりませんでした。しかし、同じ状況で利用者様とどのようにコミュニケーションを行っているか見てみると、職員の方が利用者様の思いを受け入れ、利用者様の言葉から会話を広げてらっしゃいました。そうすることで利用者様もたくさん話をしてくださっていました。その時の利用者様の反応を見て、自分が聞きたいことを聞くより、利用者様の思いを受け止めることが大切だと学びました。この経験を生かして、今後の実習でも頑張りたいです。



【編集後記】

本日、本校において、中学生一日体験入学を実施しました。在校生が企画した生活福祉科を知ってもらうプログラムに参加してもらいました。本日参加してもらった中学生の皆さん、ご参加ありがとうございました。上記の二名が書いてあるように、「介護実習」が行われまして、今年度は、ただ体験的な実習になってしまわないように「介護研究」の取り組みを同時に行っています。介護福祉士としての専門性を高めるための介護実習も、介護実践を深めるための「介護研究」もその答えは、利用者の方との関わりの中にあると考えています。利用者の方の人生と自分の心に真摯に向き合うときにこそ、新たな価値を発見することができると思っています。この取り組みを地域の皆さんに知ってもらうための報告会を実施する予定です。

(学級担任 岩川亮太)